



熊本県立大学文学部

# 文 彩

第  
二  
号

2006年3月

文

彩

第  
二  
号

二〇〇六年三月

熊本県立大学文学部

文彩 BUN-SAI vol.2

<小特集=古今集1100年によせて>

「古今和歌集1100年熊本フォーラム」概要報告 …… 鈴木 元

●特別寄稿二本

早稲田大学教授 兼築信行「古今和歌集1100年・新古今和歌集800年  
記念切手発行の裏話」

東京成徳大学助教授 青柳隆志「披講作法点描」

●古今集への途

万葉から古今へ——国風暗黒時代をめぐる一つの解釈 …… 山崎 健司

●新古今と連歌

本歌をとる …… 鈴木 元

●古今伝授と徒然草の秘伝

徒然草の「しろうるり」——古今伝授の周辺 …… 川平 敏文

\*

\*

●近代熊本の一学僧

佐田介石をたずねて …… 梅林 誠爾

●文法を考えなおす

文の分類と「が」「は」 …… 半藤 英明

●漢字の見方今昔

楷書はむずかしい——江戸の人々と漢字(二) …… 米谷 隆史

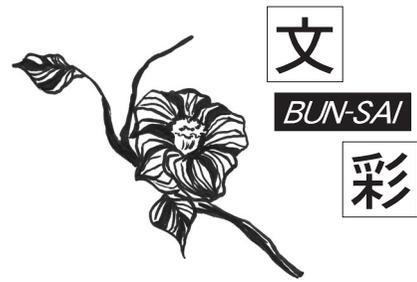
●作文添削の中から

外国人留学生の書いた日本語作文の分析 …… 馬場 良二  
——ニュージーランドの華僑の場合

●昔話の中の女性

そして、それから…(?) : 王女の物語 …… 難波美和子





◇執筆紹介・コメント（五十音順）

青柳隆志 東京成徳短期大学助教授。新撰万葉→朗詠と渡り歩いて、いままた披講を通じて和歌に戻りつつあります。
梅林誠爾 本学学長。専門領域は哲学、ここ十年のテーマは「時間」。最近、日本近代思想、とりわけ熊本の近代思想についての研究を試みている。
兼築信行 早稲田大学教授。藤原定家を軸に和歌史の諸問題を考究したい。和歌がたち現れてくるさまざまなプロセスに関心を抱いている。
川平敏文 本学助教授。日本近世文学。江戸時代の学問と文芸、特に徒然草の受容をめぐる諸問題など。最近、明治期にも興味がある。
鈴木 元 本学助教授。日本中世文学。主に南北朝期以降の文芸を中心に研究。しばらくは、和歌・連歌を中心に取り組む予定だが、次の関心はどこへ向かうやら。
難波美和子 本学講師。比較文学。研究の出発はインドの昔話。現在の研究主題は、18世紀の旅行記と小説に見るイギリス人のインド表象。(9月末までロンドンで研修中。)
馬場良二 本学教授。日本語教育学。学習者の産出した日本語の分析だけでなく、なぜそういうのか、どう教えられたのかを調べ、学習者が構築した日本語を分析する。

半藤英明 本学教授。日本語学。専門は文法で、特に助詞の研究。近年は係助詞、係結びを中心に、「格」の問題や文の構造、「は」と「が」について扱う。
山崎健司 本学教授。日本古代文学。現在の専門は萬葉集だが、古今集の年を機に国風暗黒時代の文学について本格的に考えてみたいと考えている。
米谷隆史 本学助教授。日本語学。江戸期に出版された辞書の内容を吟味しつつ、当時の人々の言語生活を探っています。紙屑同然の古い和装本が大切な資料です。

熊本県立大学文学部 『文彩 BUN-SAI』 第2号

\* 発行 2006年3月1日
\* 発行所 熊本県立大学文学部 熊本市月出3丁目1番100号
\* 印刷所 (株)啓文社 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉1765
\* 表紙デザイン/カット 浦部里美

<小特集・古今集1100年によせて>

○三大学合同フォーラム概要報告 「古今和歌集1100年熊本フォーラム」概要および顛末記 …… 鈴木 元 …… 1

[特別寄稿]

早稲田大学教授 兼築信行「古今和歌集1100年・新古今和歌集800年 記念切手発行の裏話」 …… 7

東京成徳大学助教授 青柳隆志「披講作法点描」 …… 11

●古今集への途 万葉から古今へ——国風暗黒時代をめぐる一つの解釈 …… 山崎 健司 …… 18

●新古今と連歌 本歌をとる …… 鈴木 元 …… 23

●古今伝授と徒然草の秘伝 徒然草の「しろうるり」——古今伝授の周辺 …… 川平 敏文 …… 30

\* \*

●近代熊本の一学僧 佐田介石をたずねて …… 梅林 誠爾 …… 38

●文法を考えなおす 文の分類と「が」「は」 …… 半藤 英明 …… 47

●漢字の見方今昔 楷書はむずかしい——江戸の人々と漢字(二) …… 米谷 隆史 …… 50

●作文添削の中から 外国人留学生の書いた日本語作文の分析 …… 馬場 良二 …… 55 ——ニュージーランドの華僑の場合

●昔話の中の女性 そして、それから…(?) : 王女の物語 …… 難波美和子 …… 68 (1)

